

# RISEISHA

## SPORTS ENGLISH DEPARTMENT

スポーツ外国語学科 入学案内

履正社国際医療スポーツ専門学校

[www.riseisha.ac.jp](http://www.riseisha.ac.jp)

# 勝つための 語学を、 人生の武器に。

2020年4月、大阪に「英語力」と  
「スポーツ・医療の専門資格」を同時に  
取得することのできる専門学校が誕生しました。

履正社は英語を学びながら、日本スポーツ協会公認の  
アスレティックトレーナー資格や、  
理学療法士、柔道整復師、鍼灸師の国家免許、  
各競技のコーチ資格やパーソナルトレーナーの  
資格取得をめざせる、日本で唯一の学校です。

世界で勝つことを求められる日本スポーツ界で  
採用担当者が今最も欲しいのは、英語が話せる人材。  
本校は、通訳を挟まずに外国人と意思疎通がはかれる  
高度スポーツ人材を育成し、時代のニーズに応えます。

## 履正社国際医療スポーツ専門学校

### CONTENTS

- 04 ごあいさつ
- 08 卒業生、在校生インタビュー
- 10 学科の特徴
- 12 カリキュラム・時間割
- 13 ダブル・ラーニング制度
- 16 卒業生インタビュー
- 20 就職先・進路
- 22 プロスポーツの現場から
- 24 海外留学について
- 26 教員紹介



## MESSAGE

### リーチ マイケルさん

プロラグビー選手

1988年、ニュージーランド生まれ。留学生として15歳で札幌山の手高に入学した。東海大在学中の08年にラグビー日本代表デビュー。13年に日本国籍を取得し、14年4月、日本代表主将に就任。19年ワールドカップ日本大会ではチームを率いて初のベスト8進出を達成。

一番大事なものは、環境を変えること。

世界の一流国の中で、日本ほどスポーツ関係者が英語を話せない国はありません。他のアジアの国々はどこも話せるのに、本当に不思議です。また、日本のスポーツ界は西洋に比べて10年以上、遅れていると言われています。スポーツ科学、心理学、分析、コーチング……。特にコーチングは、指導者が国内の情報しか知らないから、自分が教わってきた指導をそのまま繰り返す傾向が強いと思います。根性練ばかりやらされてきた人は、自分も根性練をしてしまう。そのサイクルを断ち切るためには、海外で今行われていることを日々、学ばなければいけません。

そのためには、やはり英語が必要です。私自身、日本に来る前に2年間、日本語を勉強しましたが、向上したなと思えたのは、日本で生活するようになってからです。一番大事なものは、環境を変えることです。

例えば私はニュージーランドでもプレーしましたが、個人的に日本人のトレーナーを雇っていました。なぜなら向こうのトレーナーは仕事が大雑把。でも日本人のトレーナーは仕事がすごく丁寧で、技術もしっかりしているし、理論に基づいてケガを治療してくれる。チームメイトがそれを見て、「自分も診てくれ」と殺到するようになり、そのトレーナーはチーム専属スタッフとして契約を打診されました。

彼は環境を変えて飛び込んだからこそ、チャンスをつかむことができたんです。世界はまだまだ、日本人トレーナーの優秀さに気づいていません。英語さえ話せるようになれば、世界の一流の舞台で勝負ができるのです。そして海外で得た知識や技術を日本に持ち帰れば、日本のスポーツ界を変えられる。履正社からスポーツの人材を世界に送り出すために、僕もサポートしていきたいと思っています。

## MESSAGE

### ウーリッヒ・クルツさん

元ベルリッツ・ジャパン副社長  
南アフリカラグビー親善大使

1959年、南アフリカ生まれ。87年来日して以来、30年以上にわたって日本の青少年の英語教育に携わり続けている。93年にベルリッツ最優秀講師を受賞し、2003年にはベルリッツ・ジャパン副社長に就任。14年からは南アフリカ共和国スポーツ親善大使を務めている

英語を武器に、世界のステージへ。

日本の人口は世界の1.6%。日本語しかできない人は、その中でしか活躍できません。でも今、日本のスポーツ指導者、トレーナー、医療人、アスリートのほとんどが1.6%の中にとどまっています。これは非常にもったいない。日本人は世界中のプロチームや大学のクラブで仕事ができる力量があるのです。もし英語が話せれば、活躍の舞台が世界中に広がるチャンスがあり、何より最先端のスポーツの知識や技術、文化を直接学べるはず。

日本人の中には1週間に2回程度、英会話学校で学習する人はいますが、それではとても足りません。たとえば中国や韓国の若者の英語力は日本人を大きく上回っていますが、彼らは毎日2時間以上、英語を勉強しています。英語を身につけるには、毎日やることです。履正社のプログラムは、毎日英語を勉強できる。これが大事です。また、日本の英語の教材の多くは、日本語と英語で書かれています。でも、英語を学ぶときは英語だけを使うことが重要です。これは世界では常識ですが、いまだに日本では「英語を日本語で学んでいる」のが現状です。英語が母国語でない先生も多い。だから日本人は英語をなかなか話せるようにならないのです。

そして学校だけではなく、できれば留学するべきです。生活の中で文化も同時に学ばなければ、本当の意味で英語に馴染むのは難しいでしょう。

多くの日本人が、社会人になってから「さらに上のキャリアを目指そう」となって初めて、英語の必要性に気づき、困る人がたくさんいます。でも、その時にはもう遅い。じっくり英語を学ぶ時間はありません。若いうちから世界のステージで活躍するという夢を持つていれば、英語の上達度も全然遅くありません。履正社から世界に羽ばたく若者がたくさん生まれることを強く期待しています。



履正社医療スポーツ専門学校



〔卒業生、在校生にきく〕

# どうして、そんなに話せるの？

スポーツ外国語学科の学生たちが海外に留学すると、その英会話力に、日本の大学生が驚くと言います。そのワケは、本校が「コミュニケーションツール」としての英語を徹底研究し、従来の英語教育にはないメソッドを採り入れているから。実際に授業を体験した卒業生と在校生に、「話せるワケ」をきいてみました。



授業では毎日、ネイティブの先生と英語で話す時間があります。

**習った単語やフレーズを、既存のロールプレイではなく自分の会話の中で、自分の言葉として実際に使う機会がある。だから定着もしやすいんです。**

気軽にアウトプットできる環境と日々のスピーキングが、今の自分の英語力を固める基礎になっています。

石川未悠さん(国際AT専攻2年生)

少人数制だから先生にすぐ質問ができ、会話をひとり占めできるチャンスがあります。

**フォニックス(発音)の授業を受けてからは、カタカナ英語ではなく、ネイティブに伝えるための発音を意識するようになりました。**

日本語がポロっと出ても、クラスメイトが英語で助け舟を出してくれる。「みんなで英語を磨こう」という一体感の中で勉強しています。

小山詩織さん(2年生)



テストのための英語ではなく、「話すための英語」を徹底して学べます。トレーニング英語を実践する「フィジカル・イングリッシュ」の授業では、1年生を相手にリードする機会が増え、より積極性が必要になりました。指示された内容を英語で説明したり、逆に英語を日本語に訳すことも。

**英語を話すことへのハードルが、ぐっと低くなりました。**

田中翔彩さん(国際AT専攻2年生)



活発なコミュニケーションは元々苦手で、入学当初は「単語や文法を間違ったらどうしよう」という思いが先に立ち、黙りがちでした。

**でも、ここでは間違っても誰も笑わない。ミスを恐れずとにかく話そう、というムードがありました。**

難しい単語なんて使わなくていい。相手に伝わる簡単な言葉にすることを徹底して教わりました。この環境があったからこそ、プロラグビーチームの現場に立てているのだと思います。

須藤悠太さん(2022年卒業生)

スポーツ外国語学科を卒業し、カナダの語学学校に入学して1カ月が過ぎた頃。日本人のクラスメイトに「留学してどれくらい？」と聞かれ、「1カ月」と答えたら「なんで、そんなに喋れるの？」と驚かれました。

**習熟度別でクラス分けされた授業も、私の場合、リーディング&ライティングより、スピーキングと文法、コミュニケーションのクラスのほうがでした。「日本人には珍しいケース」と言われました。**

佐伯絵美さん(2022年卒業生)



英語で話すことが日常茶飯事の2年間。その先には、どんな体験が待ち受けているのでしょうか。卒業生の佐伯絵美さんが、こんな話をしてくれました。

「カナダの語学学校で、私より1カ月後に入ってきた日本人の大学生に、「リーディングとライティングが」同じレベルのクラスなのに、そんなに話せるのが不思議、と言われました。日本人留学生は一般的に、リーディング、ライティングは得意だけれどスピーキングは苦手。でも、私は逆でした。入学当初は先生が話していることを日本人のクラスメイトに説明することも多かったです」

黙っていても始まらない。上手い下手は関係なく、話すことを楽しむ。このマインドセットが、学生を変えていきます。

スポーツ外国語学科で習得した実践的な英語は、自由な意思疎通を可能にし、活躍の場へと羽ばたく翼となる。コミュニケーションの本質を身につけるためのメソッドが、本学科にはあります。

**実践的な英語で羽ばたく。**

「先生の石川未悠さんは、「アウトプットの量が違う」とも。

「発表の場があるのはもちろんのこと、休み時間や放課後も先生と雑談する機会が多いので、習った単語やフレーズを自然に使えます。授業で教わった会話や言葉のための教材として学びを終わらせるのではなく、自分の会話の中で必要な言葉、表現として口に出す。だから、身につくんです」

ネイティブ教員との他愛のないおしゃべりも、話すための大切な時間。

「週末は何してたの?」「昨日、何食べたの?」など、先生が気軽に話しかけてくれます。学校にいるときは、海外にいるような感覚。2年生になってからは、自分から話しかけることも増えました」

と、田中翔彩さん。学校にいる間はオリジナルリッシュを合言葉に、学生たちは日々の学生生活のなかでどんなテーマの会話でも英語で話せる対応力を養い、自然と磨き上げていきます。

## 海外にいるような感覚で。

在校生の石川未悠さんは、「アウトプットの量が違う」とも。

「発表の場があるのはもちろんのこと、休み時間や放課後も先生と雑談する機会が多いので、習った単語やフレーズを自然に使えます。授業で教わった会話や言葉のための教材として学びを終わらせるのではなく、自分の会話の中で必要な言葉、表現として口に出す。だから、身につくんです」

ネイティブ教員との他愛のないおしゃべりも、話すための大切な時間。

「週末は何してたの?」「昨日、何食べたの?」など、先生が気軽に話しかけてくれます。学校にいるときは、海外にいるような感覚。2年生になってからは、自分から話しかけることも増えました」

と、田中翔彩さん。学校にいる間はオリジナルリッシュを合言葉に、学生たちは日々の学生生活のなかでどんなテーマの会話でも英語で話せる対応力を養い、自然と磨き上げていきます。

履正社ならではの  
コミュニケーションメソッドとは。

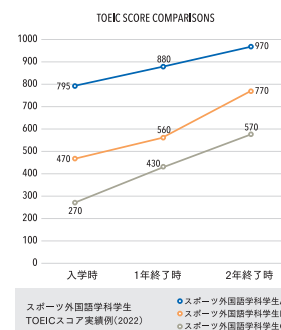
## FEATURES 学科の特徴



### 01. 好きを原動力に学ぶから、 TOEICスコアも大躍進。

スポーツ現場でスタッフとして活躍するためには、競技特有の知識や用語を使いこなせることも必要です。本学科では、スポーツ現場の様々なシチュエーションを想定したプログラムを用意しています。英語での対応力を磨くためにロールプレイを行ったり、スポーツ実況の聞き取りやスポーツ記事の読み取りを訓練したり、スポーツを題材とした独自の教材を通して、スポーツ現場で通用する英語力を養います。

TOEICスコアの伸びは大きな特徴。学生は入学後1年半で平均200点スコアを伸ばしており、約3割の学生が300点以上のアップを記録。970点をマークした学生も現れました。飛躍の秘密は、「自分が好きな分野を専門的に学ぶから、高い意欲が持続すること」。入学直後から、楽しみながら英語の総合力を磨いていきます。



### 02. 全国で唯一、ここにしかない ダブル・ラーニング制度。

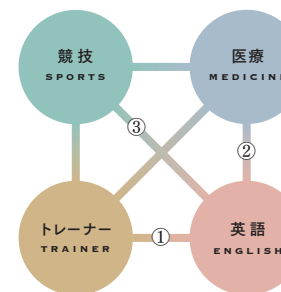
希望者はダブル・ラーニング制度を選択し、①日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナー資格、②医療国家免許(理学療法士、柔道整復師、鍼灸師)、③各種スポーツ指導者資格等を取得することで、自分に付加価値をつけ、将来の進路の幅を大きく広げられることが特徴です。これらの資格を自由に組み合わせることで取得できる語学学校は、全国に例がありません。

①アスレティックトレーナー資格は、文科省が統括する日本スポーツ協会公認です。現在はほとんどの競技で、この国内最高峰のトレーナー資格を保有していることがトレーナー採用の必須条件になっています。

②近年は日本の医療技術を求めて海外から来院する患者や、海外でも日本の医療技術の導入を求める声が増えています。そこで必要とされているのが、「英語が話せる日本の医療人」の育成です。

③履正社では、各種競技のコーチング資格のほか、パーソナルトレーナーやインストラクターなどの運動指導者資格を取得することができます。海外の指導理論や最新のトレンドを日々、英語で情報収集することは、これからの指導者に必須のスキルと言われています。

※上記ダブル・ラーニング制度の詳細については、13ページをご覧ください。



ダブル・ラーニング制度の概念図

### 03. プロスポーツチームでの スペシャルな現場実習。

プロスポーツチームとのパートナーシップによる提携も、履正社ならではの特徴です。バスケットボールBリーグの大阪エヴェッサ、ラグビーリーグワンのNTTドコモレッドハリケーンズ、サッカーJリーグのセレッソ大阪等と連携し、トレーニング見学や公式戦の運営補助、チームスタッフによる特別講義などのプログラムを用意しています。2年次にはインターンとしてチーム業務をサポートする業務を通じ、プロスポーツの実際の現場をより身近に体感するとともに、就職に向けた人脈作りにも役立ちます。



セレッソ大阪

### 04. 希望に応じて、 最大1年間の海外留学。

スポーツ外国語学科では、2年次または卒業後に、最大1年間の海外留学制度を利用することができます(希望選択制※)。

本校では多くの在校生が留学を希望しており、2022年1月時点で数名の学生がカナダへ。今後はカナダのみならず、国際的な渡航制限の状況に応じてニュージーランド、オーストラリアなどへの留学も可能です。



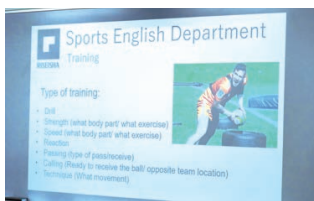
### 05. 徹底した少人数教育で得られる 質の高いフィードバック。

本学科は定員30名の少人数制です。授業中をはじめ、登校時の挨拶から休み時間、放課後まで、ネイティブの教員と英語でいつでも日常会話ができる距離の近さ、アットホームな環境が魅力です。勉強のこと、海外の文化のことなど、積極的に英語で先生に相談してみてください。テストの点数だけでなく、一人ひとりの到達度を様々な指標できめ細かくフィードバックしてもらえ、少人数制のメリットです。



### 06. オンラインを活用した、 オリジナルの入学前教育。

語学習得への道は、入学決定後から始まります。本学科は、入学予定者に対し、高校在学中からオンラインによる「入学前教育プログラム」を提供し、任意で英語学習を無料で始めていただけます。進路が早期に決まれば決まるほど、将来の目標へのスタートダッシュを早く切るアドバンテージを手にすることができます。



続きをご覧になりたい方は、

**無料** 資料請求ページにてお申込み下さい。